【音楽科】教科提案

「つなげる」ことでせまる音楽の魅力
～思いや意図をもって表現できる子どもに～

１．研究テーマ設定の理由

（１）学校提案とかかわって

音楽科では，学校提案「問い続け，学び続ける子どもたち」を受けて，昨年度は「つなげる」をキーワードに，授業で身に付けた知識や技能，学習したことを使って，意欲的に工夫しながら音楽活動を行う子どもの姿をめざして実践・実証を重ねてきた。鑑賞と音楽づくり，鑑賞と器楽など，表現と鑑賞の各活動を関連付けて題材計画を立てることで，音楽のもつ魅力や味わいをより感じることができ，子どもたちの学習意欲が高まることが確かめられた。また，グループ活動を取り入れることで，仲間と合わせる喜びや心地よさ，仲間と創り出す楽しさを味わう子どもたちの姿が見られた。一方で，「子どもと教師の思いにずれがある」「思いや意図が音楽的な要素や音楽の仕組みとつながっていない」などの課題があった。

本年度は学校提案「問い続け，学び続ける子どもたち～子どもの言葉でつくる授業～」を受けて，音楽科では昨年度に引き続き子どもたちを主体とした「つなげる」をキーワードとする。さらに，本年度は，どう表現したら良いかを思考・判断する経験を積み重ねたり，音楽表現に対する思いや意図を言葉で表現するなど，思考・判断の過程を大切にしたりしながら「思いや意図をもって表現できる子ども」をめざす。子どもとつながる対象として様々なものが考えられるが，特に次の３つの対象とのつながりを大切にする。

①教材（楽曲）とつなげる

「させられる」のではなく，「もっとやってみたいな」「こんなふうに表現したいな」と一人一人が音楽を楽しむ姿が理想的である。まずは，鑑賞や音楽づくりの授業を中心にしながら，子どもたちが主体的・創造的に取り組める授業を展開し，一人一人の気付きや感じ方をクラス全体で共有・共感したりすることを大切にする。そうすることによって，鑑賞や音楽づくりで得たことを自分の音楽表現に生かし，思いや意図をもって表現しようとする子どもにつながると考える。

②仲間とつなげる

思考力・判断力・表現力は仲間とのつながり（コミュニケーション）を通して培われると考えている。仲間の気付きや奏でる音に耳を傾けて聴き合える関係づくりを積極的に行っていきたい。また，言葉を介して協同的に音楽活動に取り組むことで，音楽表現に対するイメージをより明確にしながら，仲間と共に音楽を創り出す喜びや楽しさを実感してほしい。

③自分とつなげる

過去の経験や既習内容を生かして音楽をつくったり表現を工夫したりすることができる力を育む。また，互いに表現する場を設けたり，自分たちの表現を客観的に見る場をつくったりするなどして，自分の学びを振り返ることが出来るようにする。「こんなことができた。」「表現を聴いてもらえた。」と達成感を味わうと共に，「次はこんな表現をしてみたい。」と学ぶ意欲を持続させるようにする。

（２）サブテーマにかかわって

①音楽科における言葉とは

音楽科では，言語のみならず，音や音楽を口ずさむこと，聴き取ったり感じ取ったりしたことを絵や図，線などで表すこと，歌いながら指揮をするように手も動かしているなどの身体表現も含めて「子どもの言葉」と捉える。

②子どもの言葉でつくる音楽科授業

子どもたちが自分にとって価値のある表現活動を創り出すためには，表現に対する自分の考えや思い，意図を一人一人がもつことが大切である。音楽を聴いて感じ取ったり気付いたりしたことなどを自分の言葉で表したり，どう表現したいか思考・判断して仲間と伝え合ったりすることで，自分の表現したいイメージや思い，意図を明確にする。さらに，「どのように表現したらよいだろう？」「どのように音を重ねたら思い通りの響きが生まれるだろう？」「みんなの演奏をそろえるには何が必要だろう？」など，思いや意図を「音」「表現」にするために，常に仲間同士で言葉の具体的な内容を音で確かめながら共有することで，学びを深める。

（３）音楽科でめざす子ども像

音楽的「知識・理解」「技能」「能力*」をバランスよく身に付けることで，自分に合った生活スタイルを見つけ，自分を音楽で豊かにし，生涯音楽の基盤を手に入れようとする子どもをめざす。この３つの中でも特に「能力」は仲間と共に学ぶからこそ身に付く力であると考える。そこで，音楽科がめざす子どもの姿を次にようにした。　（*ここで言う「能力」とは，「思考力・判断力・表現力」の総称である。）

自ら進んで音楽に向き合い，仲間と試行錯誤しながらよりよい音楽を求めていく子ども

つい，「よい演奏をさせたい」「よりよい音楽をつくらせたい」などの教師の思いが強くなり，教師主導の授業になってしまうことがある。しかし，学んできたことを生かしながら，思いや意図を思い通りに表現するにはどうすればいいかを仲間と共に考え，工夫することを楽しめる子どもを育てていきたい。

そのために，まずは常時活動を充実させて仲間とのつながり（コミュニケーション）を深め，ペアやグループ活動などを取り入れて，自分の考えを言葉で伝え合う場面をつくっていきたい。

２．音楽科学習における「問い続け，学び続ける子どもたち」

（１）音楽科における “問い続け，学び続ける子どもたち” の姿

音楽科では，「問い続け，学び続ける子どもたちの姿」を次のように定義する。

自ら問いとなることを見つけ，夢中になって表現の工夫をしたり自分の思いで聴いたりしようとする姿

音・仲間・自分とのつながりを大切にした授業づくりを行い，題材を通して学習意欲を持続させながら一人一人が音楽と向き合えるようにする。また，音楽表現への思いや意図を実現していく過程で，自ら問いとなることを見つけ，仲間と関わり合いながらその問いの解決に夢中になる子どもの姿をめざす。

以下に，具体の姿を示す。

学びを追究する子ども
○音楽と積極的にかかわり，音楽表現への自分の思いや意図，考えをもつことができる ○思いや意図を音や音楽，言葉などを通して表現するために，様々な表現の仕方を工夫したり，進んで必要な技能を身に付けようとしたりする
他者との関わりを大切にする子ども
○それぞれが感じたこと，分からないことなどをペアやグループ，集団で共有しながら，積極的に関わり合いを求め，学び合おうとする ○多様な音楽や表現方法に触れ，気付いたことを自分の表現に生かそうとする
学びを実感する子ども
○授業で身に付けた基礎的・基本的な知識，技能や学習したことを使って，表現の工夫をしたり，思いをもって聴いたりしようとする ○自分の表現を発表したり客観的に見たりすることで，達成感を味わったり，学びの意欲を持続することができる

（２）音楽科における子どもへのみとりと支援

子どもへのみとりと支援については，下記の５つのことを重点的に進めていく。

①細やかな評価規準や評価計画の作成（短期的，または長期的な視点で一人一人の学びの深まりや変容をみとり，どのような支援が必要であるかを考えて学習を展開していくようにする。）

②ICT 機器の活用（子どもたちの興味・関心を広げたり，より学習状況を把握しやすくしたりする。）

③ワークシートの工夫（考えや思いが的確に表現できるようにする。）

④長期的に子どもの学びをみとる（①③を活用し書き込み状況を記録（コピー等）し，個人カルテとしていく。）

⑤子どもたちの関係性をとらえる（仲間とどのように関わり合い，支え合って学びを深めているかなどの子ども同士の関係性を関係図や座席表に記録し，把握する。）

（３）事例：５・６年Ｆ組の実践から「リズムを選んでアンサンブル」

そうし：ぼくのイメージ言ってもいい？ぼくが思ってるのは，１人で学校へ来たんだけど，忘れ物したことに気付いてまた家へ慌てて戻っていくっていう感じの曲にしたいんよ。

ゆうた：うんうん。ということは…まず一人で演奏して，それからだんだん音が加わっていくけど，また一人で演奏する感じにしたらいいんじゃないかな？

りん：慌てて戻っていくんだから少し速くしていってもいいかもね。

これは，どのようなリズムアンサンブルをつくるか３人グループで話し合っている場面である。このように仲間に思いを伝え，それを音楽的な要素と絡ませながら話し合うことによって曲のイメージを共有し，思いを形にするにはどうすればいいのか試行錯誤している。

３．研究の展望

音楽科では，子どもたちが質の高い音楽的な力を身に付けるために，「つなげる」をキーワードに表現及び鑑賞の楽しい活動を通して，音楽の魅力に迫りたい。思いや意図をもって表現できる子どもを育てるために，以下の方法で問い続け，学び続ける子どもたちをめざす。

①主体的に取り組める鑑賞活動を展開する

これまでも実践してきたことであるが，受け身になりがちな鑑賞活動を子どもたちにとって主体的な活動にし，表現活動と関連付けていくことで学びがより深まっていくと考えている。明確な聴く視点を与えたり，身体表現を取り入れたりするなど，楽しみながら音楽の仕組みや音楽を形づくっている要素に迫れる鑑賞活動にする。また，ねらいに応じて視聴覚教材を用いたり，学んだことを振り返りやすくするための掲示を工夫したりする。

②常時活動を充実することによって，音楽・仲間とのつながりを深める

拍の流れにのって演奏する力や歌やリコーダーの演奏技能を高めるなど，音楽の基礎的・基本的な技能や能力は，系統立てて積み重ねていくことが大切である。即興的なリズムリレー演奏やリクエスト曲，音楽に合わせて身体を動かしたりするなど，子どもたちにとっては遊びと感じられるような楽しい音楽活動を常時活動として授業のはじめに位置付けることによって，基礎的な音楽の力を自然に身に付けさせたい。また，常時活動において，仲間と音楽に楽しく触れ合うことで仲間とのつながりを深め，高め合える関係づくりを行っていきたい。

③子ども同士のつながりをとらえる

子どもたちがどのような仲間との関わり合いの中で学びを深めていくのかをとらえていく。子ども同士が支え合いながら学び合っていく姿に着目することで，教師がどのタイミングで支援すべきであるかが見えてくると考えている。子ども同士のつながりを記録し，子どもたちの関係性をとらえながら授業を展開する。

４．研究の評価

次の①～③を評価するために，子どもの表情・発言・演奏・ワークシートなどを記録し，評価の材料とする。１時間の授業ごとに評価するだけでなく，題材や１年間を通して，長期的な視点で評価する。

①充実した鑑賞活動など音楽とつながる活動を行うことで子どもたちの学びの姿が変化したか。思いや意図をもって表現することに生かすことができたか。

②仲間とつながる学習環境を用意したり，子ども同士のつながりを捉えたりすることで，すべての子どもたちの学びの深まりが見られたか。

③自分とつながること（過去の経験や既習内容を生かして学びを進めていくこと）や学びを振り返ることで，すべての子どもたちの学びが高まり，達成感を味わう姿が見られたか。

【参考文献】

〔1〕文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説　音楽編」　教育芸術社
〔2〕金本正武・坪能由紀子(2009)「平成２０年度版　小学校新学習指導要領　ポイントと授業づくり　音楽」　東洋館出版社
〔3〕鹿毛雅治（2007)「子どもの姿に学ぶ教師―「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」―」教育出版
〔4〕教育音楽研究グループ（2013)「音と言葉で子どもがつながる」教育芸術社